

## 卒業論文一覧（令和2年度）

—令和2年12月20日現在の卒論提出者ならびに  
提出予定者—

### 麻生良文研究会

岩堀 由佳	年金純債務の効率的な削減方法
熊谷 由希	労働力人口と年金制度
寺島 滉希	政府と日銀の距離感
林田 安真	公債の中立命題の検証
森 優香	持続可能な社会保障制度

### 大石裕研究会

相原 秀哉	100年に1度の大規模再開発による渋谷らしさの変容
押山麟太郎	フェミニズムは必要か—嫌われる正義—
落合 夏深	「編集」時代のポピュラー・ミュージック—ビルボード・チャートの40年—
加賀谷 萌	何故オーディション番組が再燃したのか—オーディション番組「Nizi Project」を事例に—
酒井 瞳	未定
鈴木 琴子	同性愛映画と社会
高橋 史	ミュージカル『アナスタシア』に見る「宝塚の世界」とその継承についての考察
中野はるか	オーケストラのこれから
服部廉太郎	山梨放送の動きから考える地域民間テレビ局の再構築
深海陽和太	デジタルシティズンシップ教育における日本の課題
福原 瑠菜	オリジナルアニメ『アラジン』と実写版『アラジン』の違いから読み解くプリンセス像の変化
外園 桃子	消費されるフェミニズム—ポピュラーフェミニズムの問題点と展望—
松竹 祝詞	未定
水谷 友彦	ローカルメディアによる「地方イメージ」の再生産
山本 玲	メッセージ性を持つドラマにおけるステレオタイプの再生産
李 欣怡	フェムバタイジングから見る現代中国における消費主義とフェミニズムの関係

### 大串敦研究会

足立 美咲	戦争の描き方からみる歴史的事実の捉え方の違い
館本 裕也	北方領土問題と平和条約交渉はなぜ進展しないのか
安藤 尚道	中ソ関係と朝鮮戦争
安藤 怜美	日本における正教会—日本から正教会が衰退した要因—

- 池田 康浩      なぜ日本人はロシアに好感を持ってないのか  
岩淵 文哉      社会主義と女性について  
川野瑛李花      ウクライナとケベックの言語政策を中心とした少数民族政策の比較  
重留 悠人      CIA による対ユーゴスラヴィアインテリジェンス  
志村 笑      ウラジオストクを中心とした極東開発における日系企業の参入に関し  
て  
橋 みのり      Remaining Division of West and East Vietnamese Migrants now and then  
中野 晃輔      カレリア語の「国家語」化計画の破綻要因の考察  
野崎 丈樹      非公式芸術のイデオロギー的文脈の分析  
本島あかり      冷戦初期における日ソ間のバレエ交流とその受容  
山口 拓未      ソ連のジェット戦闘機開発を遅滞させた原因について考察する  
山本 航大      2018FIFA ロシア W 杯とその外交的影響について

### 大久保健晴研究会

- 井形有香子      幻の東京五輪・万博から見る1930年代の日本  
石橋 花紅      台湾マスメディアにおける公共性の変容  
井出口はるな      吉野泰三の政治思想—混乱の三多摩政界で貫いた自由観—  
井上 香奈      「香港人」アイデンティティの変容  
岡崎 優      近代日本の黄禍論とアジア主義  
小野 恵里      維新と瘠我慢の説  
片伊勢雄太      松永安左エ門はなぜ電力国家管理に敗れたのか  
金井 洸樹      福澤諭吉の女性論の展開から解く明治期日本のジェンダー問題  
金 仁瑞      韓国とキリスト教  
高 東延      北朝鮮の人権問題  
杉本崇太郎      福沢諭吉と丸山眞男からみる現代日本民主主義の課題について—人民  
が政治参加する上で必要な要素—  
田代さくら      南方熊楠の宇宙観  
中野 政傑      黒人霊歌の意味  
中村有比子      新島襄と徳富蘇峰  
西田 一創      渋沢敬三の「常民」へのアプローチから見る水産業・海村の重要性  
福澤 優里      中韓外交正常化から考察する中国と朝鮮半島の関係変化  
丸重 茜子      明治維新とフランス革命における女性の比較  
家壽 遙      中国の少数民族とソ連崩壊 中国はソ連のような民族分裂が起きうる  
のか  
屋比久就平      「満州事変」と「元徴用工問題」からみる日本人の国際法認識の問題  
点  
山崎菜朋子      国際的視野から見る日本人拉致の解決

### 大山耕輔研究会

- 天沼 早紀      不人気な消費税政策はどのように遂行されたのか?—アイディア・ア  
プローチによる分析—

- 栗村 紗瑛 無電柱化事業の政策過程における自治体の役割  
 小出 紋花 食品ロス削減へ 行政の役割とフードバンクへの期待  
 越水 亮 義務教育費国庫負担制度に伴う義務教育学校教員の給与決定要因の変化について  
 小林 海人 PRと政策過程—新型コロナウイルス対策の行政広報に着眼して—  
 下遠野一樹 PPP/ コンセッションによる官民連携の決定要素—何を基準に行政は民間事業者を選ぶのか—  
 白井 大地 新国立競技場整備の予算決定と業績評価について—予算乱高下の理由と業績評価の政治利用—  
 関 恵里奈 生活困窮者自立支援における子どもの学習支援事業のあり方  
 田村 純也 高山市の観光まちづくりからみる住民との協働と観光ガバナンス  
 千葉 敦博 LRT 導入における、行政の取り組みの重要性—宇都宮市、堺市、富山市の導入事例から—  
 東條 有紗 福島復興予算において、復興庁は役割を果たしたのか—議事録とヒアリングから分析する—  
 中島 佑樹 技能実習法制定によって技能実習制度の諸問題は適正化できたのかなぜ市民は一般オンブズマン制度を利用しないのか  
 野本 萌子 スルガ銀行不正融資問題における金融庁の対応について  
 針田 麻未 スポーツイベントによる地域コミュニティ形成効果に関する研究—長野市と十日町市の事例をもとに—  
 堀口 綾乃

### 小川原正道研究会

- 近藤 越司 明治期の高知県における育英事業—立志学舎を中心に—  
 櫻井 菜摘 近代書き言葉の変化—マスメディアと教育の視点から—  
 白石 会美 フェリス女学院と近代日本の女子教育  
 日向 梨子 福沢諭吉没後の時事新報の評価  
 平本 真士 紙幣の肖像になった明治期の偉人たち  
 廣瀬 瑠海 文明開化時の日本の服装はどのように変貌していったのか  
 松山 令知 近代日本で道路整備がどのように行われてきたか

### 粕谷祐子研究会

- 大川実のり アフリカにおける大統領の多選制限  
 大串 実穂 紛争と女性の政治参加について  
 岡本 真依 権威主義体制の産油国における経済発展  
 柿本 良貴 日本市場における女性アイドルグループの効果的なマーケティング戦略  
 菊池このみ ハンガリーにおける民主主義後退の国内要因と国際要因—社会的亀裂の衰退と EU 加盟の観点から—  
 児玉 大河 多国籍軍の介入と紛争再発  
 小林 華子 ポピュリズムの台頭—フィリピンとインドネシアの比較から—  
 瀧川 玲子 アジアの大統領制国家における分割政府

- 西莚真里子 ハリウッド現代映画における民族的多様性  
野本 知里 北欧諸国において原子力発電への対応が各国で異なるのはなぜか  
(仮)  
堀口真悠子 東欧における民主主義の後退  
町田 瑞貴 開発援助が権威主義体制に与える影響  
松島 美奈 アフリカにおける植民地化以前の体制と経済発展  
山崎 友香 家父長的価値観下におけるジェンダー・クォータ制導入要因  
渡邊 樹 英連邦から独立した国における民主主義体制維持

### 河野武司研究会

- 赤木希、岩沢亮太、橋本史香 議会における女性議員の割合が低い理由  
大石卓真、川原駿、地引優太 民主主義国家における主権者意識向上施策の考案  
(仮)  
郡山みちる、宍戸悠莉、中野沙紀 世界の選挙制度分析 (仮)  
戸田帆南、熊澤綾乃、松田浩平 宗教政党の浸透地域における地域特徴 (仮)  
中村 俊哉 未定  
藤本 章太 コロナ禍における各国の投票率の変化  
吉岡圭吾、松永地洋、三國真太郎 主要報道番組における菅政権についての報道の  
内容とその差異 (仮)  
渡邊 暢彦 未定

### 小嶋華津子研究会

- 磯村 友仁 デジタル通貨がもたらす新たな国際経済体制—デジタル人民元やリブ  
ラは、既存のドル体制を崩すのか—  
王 允誠 ヒップホップ文化と中国政治 (仮)  
楠山 琴音 中国企業による中国音楽配信市場寡占の背景—テンセントの事業戦略  
を事例として—  
熊谷 諭介 中国はシーパワー国家へと変貌しているのか。—中国の対オーストラ  
リア戦略を探る—  
小関 嵩史 新興サッカーリーグ普及のために必要な要素 (グローバル化に対抗す  
るために) 中国、アメリカ、日本を例に (仮)  
郷原 有紗 現代韓国における言語ナショナリズム—解放後の国語醇化運動の課題  
— (仮)  
坂井 晶 観光業界における政官財の関係性—日中観光文化交流団2015政策形成  
プロセス—  
杉浦 夏子 ビッグデータの管理と国際化する中国企業 (仮)  
鈴木 陸 貞操観念の変容から中国国民の価値観の本質とそのファクターを探る  
寺崎 未来 返還後20年来抑圧の強まる香港メディア (仮)  
橋本 遼平 日中アニメ産業から見るコスモポリタンとソフトパワー戦略 (仮)  
林 真奈江 李登輝政権下における台湾民主化の軌跡—台湾民主化の進展における  
要素と条件—

- 日山 絢子 THAAD 対応のプロセスに見る韓国の対中政策の特質—朴槿恵政権と文在寅政権の比較から—
- 牧野 央 中国のクラフトビールの発展を探る (仮)
- 真鍋 匡孝 大湾区構想—統合課題と克服の可能性—
- 三輪田博行 日中教育認識比較—中国素質教育と日本の総合的な学習の時間—
- 王 思瑀 中国のソフトパワー「孔子学院」から「中外言語交流センター」へ (仮)

### 澤井敦研究会

- 石川真理子 ダークツーリズム再考
- 石丸 祐香 現代日本の若者の心理的特徴と SNS 疲れ
- 井上 茉優 現代日本の就職活動における3つの性差とこれからの男女平等について
- 上村 梨夏 多文化共生社会における教育のあり方
- 岡部 真奈 アイデンティティはどこへゆくのか—流動化社会における自己模索の変容—
- 加藤 恭介 構成主義的家族研究の提言—聖なる家族とアイデンティティ—
- 小池 紀夏 「ポスト真実」時代と変容する社会—世論形成・情報環境の視点から—
- 三瓶 杏花 高齢期を悲観する現代人—老いと高齢者に対する社会のまなざしの視点から—
- 塩澤 将輝 ポリティカル・コレクティブネスを映画に適用することの是非
- 清宮小百合 日本の義務教育における美術の可能性—人格形成への活用—
- 大胡 晴彦 若者が抱く承認不安とラッパーの自己表現—日本語ラップの隆盛から—
- 中島 京香 現代家族とダブルケア
- 中田絵梨佳 現代の若者における適度な人間関係の距離感について—友人関係のつながり依存を例に考える—
- 平岡 昌浩 「フィットネス」の社会的観点からの分析
- 前田紗木子 男性差別看過社会—男性学から考える平等社会—
- 水間 愛弓 保育の社会化—保育士不足と子育てをめぐる価値観—
- 宮田 拓弥 現代日本における「サービス」と感情労働
- 山田 紗暉 幸福感—消費における心の豊かさから—

### 塩原良和研究会

- 浅野 有依 外国につながる子どもたちへの就学前教育支援のあり方—日独比較から—
- 李エステル 流行語から見る韓国の若者の現状—2015年以降を中心に—
- 川浪 大吾 地方の若者は地域間格差をどう生きるか—地方都市の若者の地域移動の意識と実態—
- 小林 杏歌 グローバル化とナショナリズム—ポーランドを中心に—
- 佐藤みゆき 若者にとっての居場所の意義
- 田中 友樹 阪神・淡路大震災における地方紙と全国紙地方版の比較研究

日比野亘平 移民と地域の関わり方—スイスに暮らす日本人移民の事例を見て—

### 杉木明子研究会

- 阿部 圭織 サブサハラ・アフリカにおける交通輸送インフラ整備の実態  
 家村 未来 アフリカにおける医薬品アクセス向上  
 五十公野凌 アフリカにおける新たな難民政策の可能性—長期化する難民への経済的自立支援型アプローチ—  
 磯崎 令奈 マダガスカルの貧困と違法伐採  
 伊藤ありさ ザンビアとジンバブエ—経済と政治の関係— (仮)  
 金澤 尚子 ウガンダとルワンダにおける初等教育の現状と課題  
 木村 直哉 アフリカでの紛争解決における国連の役割  
 清原 晴佳 南アフリカの経済政策とインフォーマルセクター (仮)  
 栗山 公汰 マリ北部紛争に対する考察 (仮)  
 佐藤 佳明 オリンピック廃止論 (仮)  
 田中 美紀 ケニア都市部で増加する肥満の問題 (仮)  
 長島 美紀 アフリカ諸国における報道の自由とその基盤  
 藤澤 薫 アフリカにおける ICT 普及政策について (仮)  
 本多涼太郎 海外ディアスポラから探るソマリアの将来像  
 山崎 琢磨 Reconsidering securitisation experiences of Somalis in Kenya  
 吉武 信 セネガルの「政治秩序の安定・平和」におけるフランスの影響

### 高橋伸夫研究会

- 郭 晶羽 中国における高齢者の在宅介護の需要と民間主体のアプローチに関する研究—生活水準への自己評価と北京の例を用いて—  
 葛 以豪 惠台政策の政策評価を試みる—逆効果と反動—  
 申 藝熙 朝鮮戦争期に構築された朝鮮人民軍と中国人民志願軍の敵対的イメージ：韓国政府と米軍による宣伝活動と芸術作品を中心に  
 蒲 祇華 革命と国際法：中華人民共和国 (1949~1966)

### 竹ノ下弘久研究会

- 浅田慶太郎 ひとり親家庭の教育格差について  
 岩藤 優月 ひとり親の貧困をなくすには—日本と先進諸国の政策比較—  
 内田 幸花 インクルーシブ教育と障害者の人権  
 榎本 拓実 階層的地位の世代間での再生産を解消するために学校教育があるべき姿とは  
 岡嶋 優香 高学歴女子の結婚について (仮)  
 岡部 弦 主観的幸福感と自己決定  
 須田みのり 進学分岐に至る影響関係に地域間の差は存在するか  
 津村 康介 労働者幸福度から考える働き方改革の到達点  
 野阪 綾音 日本の外国人労働者の実態—国際比較から見る日本の制度のあり方—  
 矢野 葉奈 貧困の再生産の防御促進要因を探る

### 田所昌幸研究会

大石 志帆	未定
大澤 華音	未定
小関 陸	未定
鈴木 裕斗	小池百合子のファッション戦略の分析
瀬戸口優里	カナダ外交における積極路線の要因、スエズ危機の分析（仮）
田中 義人	太平洋版 NATO は今後構築されるのか
林 和孝	シーシェパードに見る反捕鯨運動の源泉（仮）
星野 真輝	事業から見る一帯一路政策（仮）
横山 雄歩	未定
渡邊 朱莉	未定
渡邊 健斗	未定

### 田上雅徳研究会

内田 七菜	未定
川勝 隆弘	未定
倉岡 爽子	未定
笹川 絵里	未定
廣重 佳	未定
堀 大輔	未定
宮崎いずみ	未定
宮森 陽菜	未定
吉田 真幸	未定

### 玉井清研究会

飯島 早絵	シンガポール陥落に対するイギリスの報道を通じてみる対日観（仮）
大澤 理央	戦時期の女流画家—長谷川春子を通して—（仮）
葛西真由香	昭和戦時下の慰問団の実態についての一考察
菊池 泉里	小卒からの大逆転 普通文官試験分析 受験誌『文官試験学び方と受験法』を通じて
佐伯 祐衣	三島すみ江に見る近代日本の女性留学とその後
島村純一郎	経済警察運営に見る戦時官民関係の一考察（仮）
成瀬 天音	キリスト教雑誌『声』に見る戦時下キリスト教
萩原 大佑	昭和二大政党期における既成政党批判—第五十九議会をめぐる反応—
溝口 然	海軍軍人・高木惣吉の前半生 近代日本における立身出世の一事例
山本 哲也	日露戦争直後の満韓像—朝日新聞満韓巡遊旅行を通じて—
吉田 俊哉	未定

### 堤林剣研究会

安部 裕貴	デジタルプラットフォーム規制についての考察—監視的側面と米国の動向—
-------	------------------------------------

- 伊藤 退助 ドイツの大規模コロナ対策反対デモの正当性—ドイツ基本権を軸に分析—
- ウェルズ桜 リファア・アル＝タフターウィーの政治思想:「正義」の追求における個人の位置付け
- 遠藤 夏奈 コロナ禍の政治判断—“正解”を決めるのは誰か—
- 小倉 稜史 ムーンショット目標の実現により予測される未来
- 夏 思安 ダムナティオ・メモリアエ 記憶の破壊
- 菊池 明彦 2006年以降における自民党政治家の属性について
- 木藤 里香 日本におけるマリファナの合法化の是非について
- 黒澤 英恵 企業のソーシャルメディア利用とウェブ炎上 なぜ「炎上」は起きるのか
- 小泉 葵 ナショナルリズムと歴史—スポーツナショナルリズムが引き起こす影響とは—
- 佐々木泰河 民主党県議会議員の委員会所属
- 佐藤 悠 デモクラシーの下の「平等」と「文明」—トクヴィルが福澤に与えた影響—
- 津野地宥樹 2019-2020シーズン NBA における Black Lives Matter 運動
- 花田ともみ 日本におけるフィールドホッケーの普及・発展のために
- 濱野倫太郎 ロールズ『正義論』における契約論的アプローチへのこだわり—ロールズとヒュームとの間の緊張関係から—
- 樋口 真由 日本人の性差に基づく身嗜みへの意識—なぜ女性は化粧をしなければならないのか—
- 水口 沙良 組織における理念浸透の重要性について—理念浸透に必要な取り組みとは—
- 宮本 真緒 子どもの貧困をいかに説明するか—実態を捉えるための視点—
- 矢村 行寛 就職活動は運か実力か—勝手に就活対策本—
- 吉田祝太郎 部下の行動を決定づける要因

### 錦田愛子研究会

- 大舘 瑞樹 国民性とグローバル化の関連性から見る日本の未来
- 長田 奈々 企業の国際協力活動における難民支援の可能性
- 小沼 央気 外国人児童の不就学を減らすために (仮)
- 開発 圭 技能実習制度が抱える構造的課題と今後の展望
- 河田 寛生 ドイツとトルコにおける難民の現状と今後
- 國井 隆宏 ドイツ在住トルコ系移民の課題から考える日本の今後 (仮)
- 小西 快 A game-changer in acculturation? – the impact of social media on international students' acculturation (仮)
- 小林 朋弘 19世紀日本から見る令和の移民対応
- 島田 花 日本における外国人収容制度の現状と課題
- 高山 大佳 日本の入管制度の現状と今後の在り方
- 鶴永さくら 日本の国際教育の課題と今後のあり方



- 永崎 寛汰 「寛容」のための「排斥」—オランダにおける移民政策の現状—  
 三浦 舜也 アメリカの不法移民と強制送還（仮）  
 山岡 陽輝 「法」の交叉点の思想—解放党英国支部の事例から—

### 西野純也研究会

- 大木 菜生 ヘイトスピーチにおける川崎市の政治過程—ボトムアップ政治を実現できたのはなぜか—  
 岡崎 茜 日中韓協力体制を実現するには—歴史認識問題の「再燃」へ東アジアダイナミズムが及ぼす影響—  
 碓井真生子 米中対立の中で捉える香港国家安全維持法問題—価値観の対立を深化・長期化させるファクターという評価—  
 内桶 峻 なぜ非核化交渉は進展しないのか—2019年の非核化交渉を巡る米朝関係から分析する—  
 大原 望 連立政権の政策過程と安全保障政策—1997年と2015年日米ガイドライン改定過程にみる与党の関与—  
 小村菜々子 ベトナム外交政策における中国ファクターを踏まえた日越関係の展望  
 齊藤 加奈 中国の対朝鮮半島政策—対韓・対北アプローチの構造上の変化・変動要因から探る—  
 手塚 勇人 米中対立時代における中国の狙い—日本へ歩み寄る中国外交からその真意を読み解く—  
 篠崎 桃子 韓国におけるN放世代とは何か—背後に潜む熾烈な競争と格差社会—  
 篠崎 諒也 なぜ慰安婦問題は解決しないのか—韓国国内における問題「維持」の構造—  
 周藤 悠高 エネルギー覇権を巡る米中対立—シェール革命が遠ざける米国の覇権と次世代を見据えた中国の台頭—  
 長岡 里奈 831決定から見る中国の対香港政策  
 中越 朱音 世界に波及する「韓流文化」の在り方  
 長澤 篤志 金正恩—文在寅政権下における南北関係の変化とその要因— 米朝の政策に揺さぶられる南北関係—  
 西山 侑里 日本における元徴用工判決に関する新聞報道の実態  
 早川 高生 なぜ中国は覇権主義外交に方向転換したのか  
 八木 菜摘 台湾外交の分岐点と日台関係の在り方  
 矢野 俊行 中国はなぜ香港国家安全維持法成立まで一国二制度を容認していたか  
 山田 敦久 COVID-19「台湾モデル」における中国ファクター  
 渡辺 至 文在寅政権下での韓国国内世論と対日政策—韓国の対日政策は、国内政治の延長か—

### 萩原能久研究会

- 菊池 彩美 理想的な組織のつくり方（仮）  
 木村 悠河 豊かな小国オランダの二面性—寛容な政策と排外主義—（仮）  
 佐藤 優人 福澤諭吉とマイケル・サンデルの政治思想的親和性—福澤による文明

- 化の方法論とサンデルの共和主義との比較—  
 清野 佑 哲学から見る平等公正な税—ベーシックインカム導入の可否—  
 曾我部静香 日本の学校教育の歴史からみる現代教育の在り方  
 田中 駿介 高島通敏と丸山眞男における「運動」の政治思想—「戦後民主主義」と1968—  
 濱田 理功 コロナ禍の行政手続きから見るマイナンバーの課題と指針  
 村田 賢信 志賀重昂、徳富蘇峰の膨張論と対外認識

### 細谷雄一研究会

- 有田 瑠子 持続可能な対外支援体制の構築は可能か—「一带一路」構想に基づいた中国の対エチオピア援助を例に今後の国際支援を考える—  
 井上麟太郎 アメリカ統合参謀本部の日本再軍備の認識の変容 1946-1952—JCSの文書を中心に—  
 上野 望 ユダヤ人財産の返還をめぐる欧米の国際政治  
 大家 奈穂 歴史政策と歴史認識問題—エストニア国際委員会と対ソ連政策—  
 大野 晴香 TICAD プロセスと日本の安全保障外交—「人間の安全保障」に焦点を当て TICAD の外交的効果を検討—  
 加藤 勇希 キャメロン政権 BREXIT への軌跡—ナイジェル・ファラージと UKIP に振り回されるキャメロン政権—  
 姜 基愛 戦後日本の安全保障政策と朝鮮半島政策—在韓米軍撤退をめぐる福田政権の政策に焦点をあてて—  
 北原 英嗣 ラインラント進駐を巡るドイツ  
 阪本 都 オバマ政権以降の米国における対露サイバー戦略  
 佐々木舜輔 ラインホルド・ニーバーのキリスト教的「現実主義」—ジョンソン政権による北爆停止決定において—  
 佐治菜々子 アメリカ政府の対外経済政策の変遷 1919-1944—秩序の繁栄と安定の模索—  
 塩田アダム アイゼンハワー政権の文化外交—「ジャズ大使」にみるソフトパワーの可能性と限界—  
 柴田 桃佳 BTS 現象から再考する文化外交—ポップカルチャーとパワー・ポリティクス—  
 高橋 祐香 フランス第二帝政のパリ都市改造はなぜ成功したのか—成功の要因から得られる教訓とは—  
 栃澤 寛太 イラク侵攻決定におけるブレア政権の政策立案過程での JIC への接近の意義  
 富澤惣之介 ロバート・ヴァンシタートと宥和政策—1930年から1937年を中心に—  
 長井 健太 パーマストンと東方問題—1840年ロンドン条約締結に至るまでの英埃関係—  
 野口 菜純 EU の鉄道政策—4つの鉄道パッケージにみる地域統合の形—  
 埴 陽次朗 小村寿太郎と満州権益—門戸開放と独占の狭間で—  
 稗田 亮 イラン革命後のアメリカの対イラン外交の変遷—「経済制裁」はなぜ

- 十分な効果を発揮することが出来ないのか—  
 細谷 萌華 ミシェル・バルニエと英国 EU 離脱交渉—欧州の未来を託された首席交渉官—
- 前田佳奈子 1950年代に始まる在日朝鮮人帰還事業実施の背景—冷戦期アメリカの対外戦略から考察する—
- 松本 陽 19世紀東欧における大国間政治とポーランド・ナショナリズム—「支配」と「抵抗」の相克—
- 三橋 幸奈 1980-90年代の世界銀行・IMFによる対アフリカ構造調整政策に関する考察
- 森川 芹 日米半導体摩擦と経済安全保障—ペンタゴンの視点から—
- 山本亜以子 イギリス帝国における財政=軍事国家の変質—19世紀中葉から末期—
- 山本 耀大 コロンボ・プランをめぐる日豪関係—日本の加入に至る日豪の外交的軋轢と調和 1945-54—
- 楊 歆 東南アジアにおける権威主義体制の民主化とその挫折—インドネシアとフィリピンを事例として—
- 渡邊美由紀 イラク戦争にみるフランス外交の特徴

### 宮岡勲研究会

- 荒田 莉子 核軍備管理条約の成否要因—SALT I と SALT II の事例を中心に—
- 石山 璃子 2009年から2020年までの米中における宇宙戦略競争の発展
- 大野 尚佳 国内紛争における多機能型国連 PKO の有効性—ポスト冷戦期における東ティモールとソマリアの事例を中心に—
- 大藪 皓太 米国のアジア・太平洋への戦略転換—H・W・ブッシュ政権とクリントン政権の安全保障政策—
- 齋藤 碧 アメリカの人道危機に対する政策変更—1992年ソマリア人道危機の事例を中心に—
- 常森 悠花 和平交渉による内戦終結と国際支援—リベリアとルワンダの事例を中心に—
- 西原真優美 軍事介入戦略の決定における要因—パナマ侵攻と湾岸戦争の事例研究—
- 畑中ふうり 2000年代における複合型の国際介入の成功条件—東ティモールと南スーダンの事例を中心に—
- 米倉 京子 民間人を標的としたテロリズムの有効性の検討—マドリードとロンドンにおける同時爆破テロを事例に—

### 山本信人研究会

- 伊藤ひかる 防災における国際協力とナショナリズム
- 大西 甘純 子育ての現場—「待機児童問題」と「新型コロナウイルス」に対応する国民—
- 張 雨微 『朝日新聞』『読売新聞』の社説比較にみる国際報道—香港民主化運動を通して—
- 永島悠太郎 Revisit Young Moluccan's Violent Actions in the 1970s